

<事業所全体による自己評価> H30.10.13実施

challenge

項目	選択した理由	現状分析	解決目標	解決方法	期限
事業所内の活動だけでなく、地域との交流や社会参加のスキルを上げる活動が取り入れられていますか	部署内で解決できそうなところを選択した。その他の項目は事業所全体で話し合い決めていくべき項目だと考えた。	日々の療育の中で、なるべく地域に出かけるようにしている。店員とのやりとりや、公園で他児と遊具の共有などを行っている。	療育の目的やねらいを理解してもらおう。地域に参加する機会を増やす。	グループ療育の中で公園やスーパー、公共交通機関の利用などは実施できているが、社会参加としては今まで保護者に説明できていなかったため、フィードバックの中で保護者へ明確なねらいや地域交流の視点を説明していく。地域の活動やイベントの情報を集めて、療育に繋げるなど参加を検討していく。古賀特と地域のお子さんの交流も今後検討していく。	1年
利用児童や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、利用児童や保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応していますか	上記同様。	個人情報により全て掲示できない等の問題や管理者としてどこまで周知させるかの判断があるため難しい。 ・Challengeは兼任職員が多い為勤務時間が合わず、個々でしか話ができている。 ※事業所としての取り組みの違いがある。	苦情等についての対応・説明についての共通理解ができるようになる。	Challengeは、報告ルートを明確にして、全員に伝えるようにしていく。内容によっては、全員参加して話し合う機会を作っていく。各事業所でサービスの内容の違いは何かを職員が共通理解を計り、保護者へ説明できるようにしておく必要がある。月に1回放デイの合同会議を行う。話し合った内容、解決に繋がった経過をまとめることでマニュアル化をしていく必要がある。日頃から保護者の要望を聴き取り、コミュニケーションを密にとっていく。	1年
非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか	上記同様。	定期的な実施には至っていない。	年に1回必ず防災訓練を行えるようにする。	日常の療育や活動の中で、子ども自身の危機管理を促していく。また、緊急時に対応できるように、日頃から子どもと職員との信頼関係を築き、児の特性を理解しておく。長期休暇中にchallengeは「ほしっこG」で実施したいと考えているため、グループの保護者に協力の打診を行っている。子どもがいなくても部署研修の中で職員だけで練習を行っていく。(定期的に放デイ合同で役割を決めて実施を行う。)	毎回 フィードバックの中で、丁寧な説明と対応を行っている。